

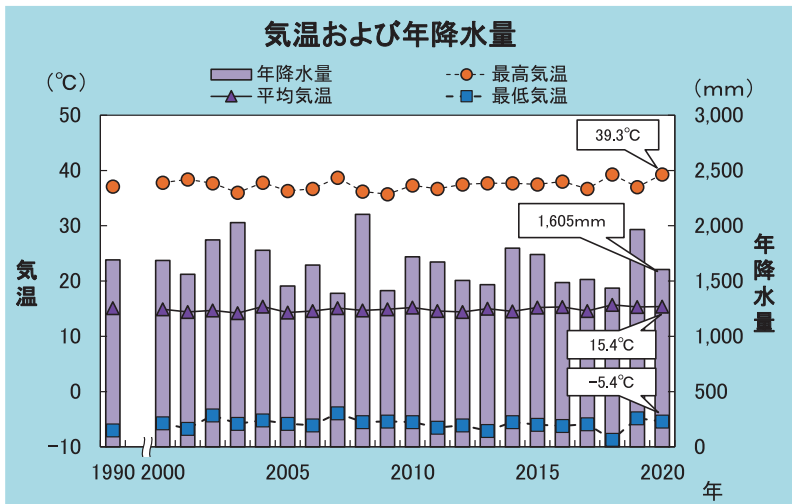
2. 町田市の環境の概要

町田市の環境の概要を紹介します。

2.1. 町田市の温暖化 ～二酸化炭素排出量の現状～

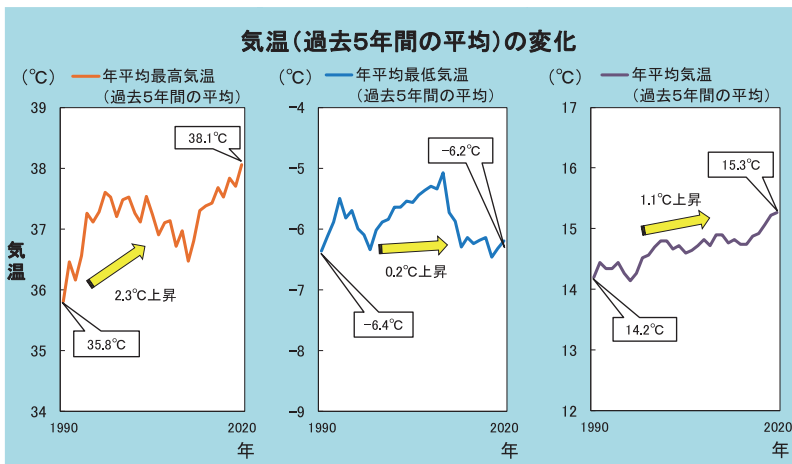
(1) 気温と年間降水量

ここ 30 年で平均気温は 1.1℃上昇しています。



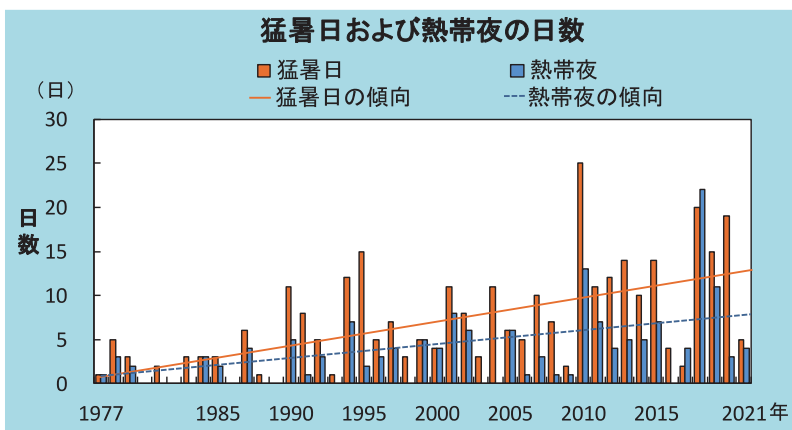
出典：気象庁データ(八王子地域気象観測所)

町田市に最も近い八王子地域気象観測所の値によると、2020年の最高気温は、39.3℃、最低気温は-5.4℃、年平均気温は 15.4℃、年間降水量は 1,605mm で、比較的降水量の少ない年でした。



出典：気象庁データ(八王子地域気象観測所)より算定

最高・最低・平均気温の各年過去5年間の平均(例：1990年は1986年から1990年の5年間の平均)でみると、1990年からの30年で最高気温は 2.3℃上昇、最低気温は 0.2℃上昇、平均気温は 1.1℃上昇しています。



出典：気象庁データ(八王子地域気象観測所)より算定

1977年以降の猛暑日(最高気温 35℃以上)、熱帯夜(最低気温 25℃以上)の年ごとの日数の推移をみると、その日数は年々多くなる傾向を示しています。

コラム エシカル消費と食品ロス削減

エシカル消費

エシカル（倫理的・道徳的）消費とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のことです。また、2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の17のゴールのうち、特にゴール12に関連する取り組みです。

私たち一人ひとりが、社会的な課題に気づき、日々のお買い物を通して、その課題の解決のために、自分は何ができるのかを考えてみるのが、エシカル消費の第一歩です。

例えば「地産地消」や「認証ラベル製品の購入」、「マイボトルの利用」等もエシカル消費に含まれます。

町田市では、来店者が持参するマイボトルやマイカップに飲みものを提供することができ、マイボトルなどの利用促進に協力していただいている店舗を「マイボトルOK店」として認定し、マイボトルの使用を促しています。

近年、国内においても特に取り組みに力を入れている、「食品ロス削減」も含まれています。



認証ラベル一例

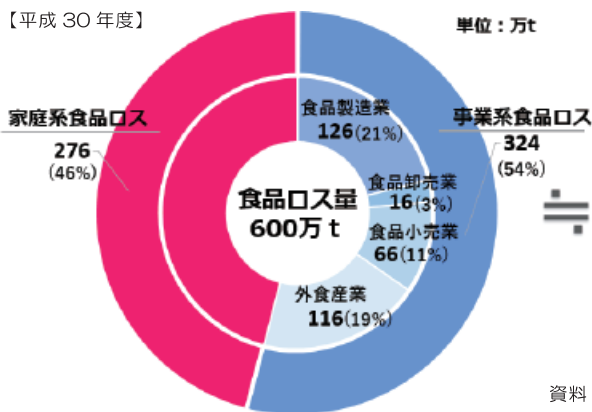


SDGs（エスディーゼス）とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標（ゴール）のことです。エシカル消費に関連している、ゴール12「つくる責任 つかう責任」とは、持続可能な消費と生産のパターンを確保することを目標としています。

食品ロス削減

「食品ロス」とは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。食品ロスは大きく分けると、事業活動を伴って発生する「事業系食品ロス」と各家庭から発生する「家庭系食品ロス」の2つに分類され、「食品ロス」の量は年間600万tになっています。

【平成30年度】



資料：総務省人口推計（平成30年10月1日）
平成30年度食料需給表（確定値）

出典：農林水産省ホームページ

町田市では、食品ロス削減の対策として、以下のような取り組みを実施しました。

●まちだ☆おいしい食べきり協力店

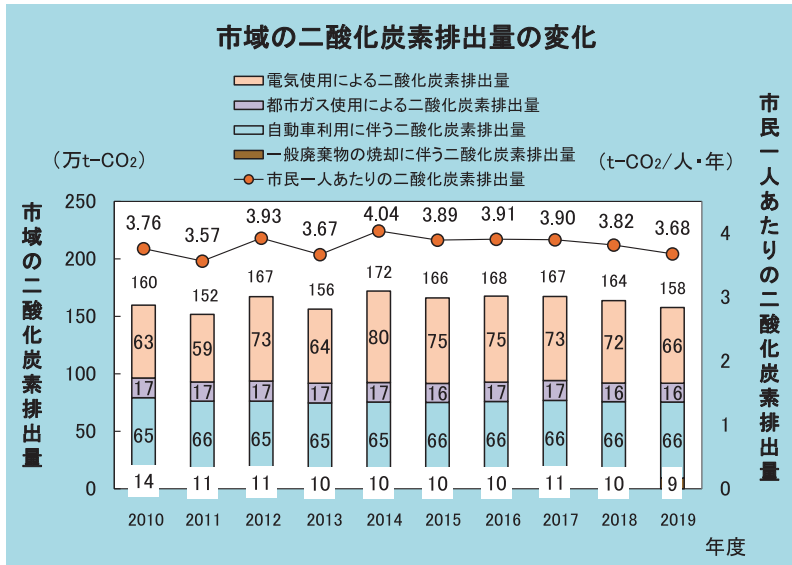
まちだ☆おいしい食べきり協力店とは、食品ロス削減に関する具体的な取り組みを行っている事業者（店舗）のことで、町田市が認定したものです。量り売りや小盛メニュー設定での適量注文ができるなどの取り組みを行っている事業者（店舗）を、市内に周知・PRすることで、食品ロスを減らすための行動をとりやすくすることを目的としています。



町田市食べきり協力店ステッカー

(2) 二酸化炭素排出量¹

近年の二酸化炭素排出量はわずかに減少傾向です。

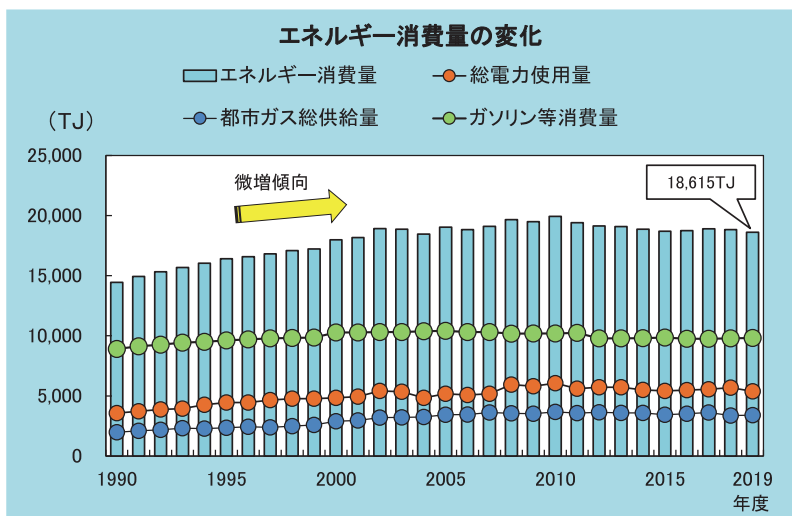


町田市の2010年度からの二酸化炭素排出量は、年度ごとに変動があります。その内訳を見ると、約42%を電気使用による排出量が占めています。電気使用量から二酸化炭素排出量を計算する際に使用する二酸化炭素排出係数²の変動の影響を受け、増減が大きくなっています。約42%を占める自動車使用による排出量は、ほぼ横ばい傾向にあります。

エコドライブ・公共交通の利用促進を引き続き図るとともに、電気使用量の削減について、より一層取り組みを行っていく必要があります。

(3) エネルギー消費量¹

近年は横ばいに推移しています。



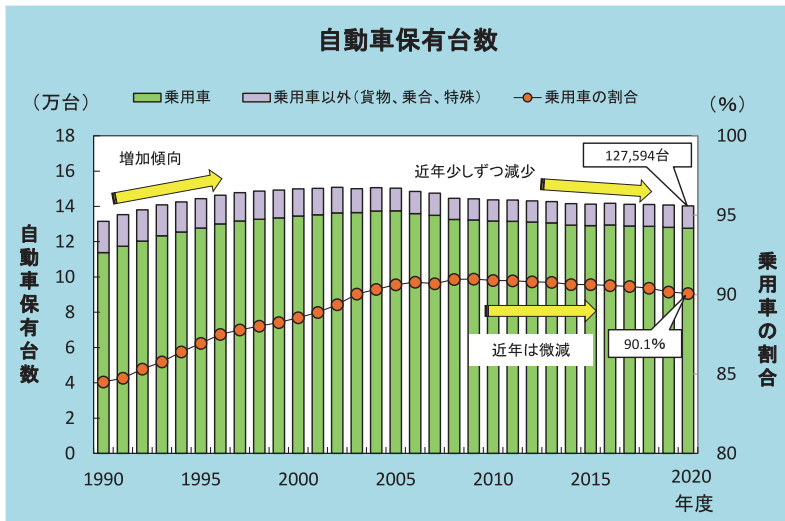
町田市全体のエネルギー消費量は、2000年ごろまで微増傾向にありましたが、その後横ばいに推移しています。

¹ (2) 二酸化炭素排出量、(3) エネルギー消費量の年次について：これらの数値については、東京都のデータを参照して算出しており、本環境白書編纂時点で2020年度のデータが公表されていないため、2019年度の数値を掲載します。

² 二酸化炭素排出係数：エネルギー使用量あたりの二酸化炭素排出量を指し、電気の場合は、電力会社が一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを示すものです。

(4) 自動車保有台数・公共交通機関利用者数

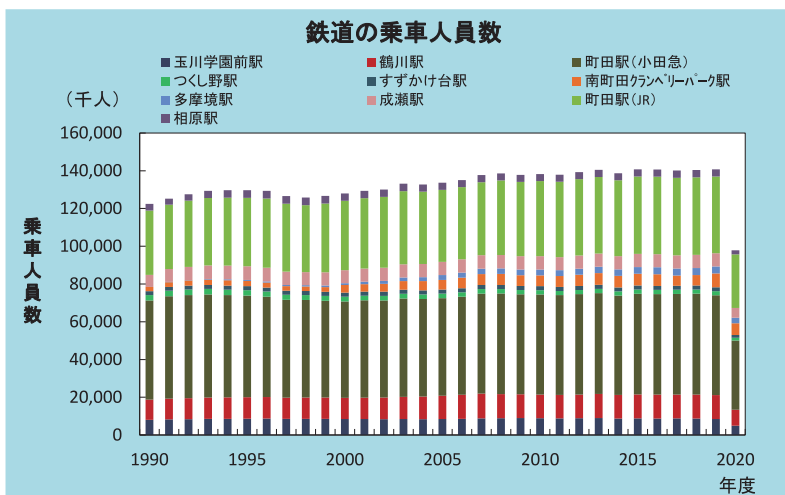
近年の自動車保有台数は微減、公共交通機関を利用する人は減少しています。



出典：市町村別自動車保有車両数
(一般財団法人 自動車検査登録情報協会編)

町田市全体の自動車保有台数(登録自動車台数)は、2000年ごろまで増加傾向にありましたが、近年は少しずつ減少傾向にあります。

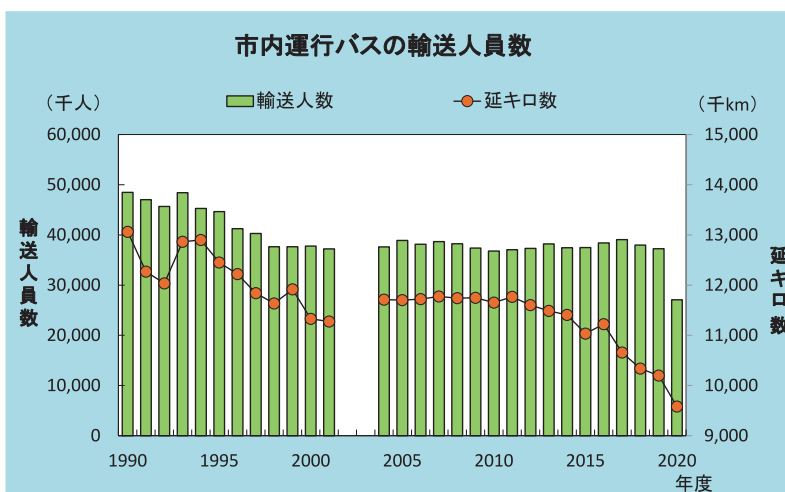
2020年度は、2019年度に比べて578台減少しました。



出典：町田市統計資料

町田市内の鉄道4路線10駅の年間乗車人員数は1990年代後半に一時減少傾向を示したものの、その後2019年度まで、微増傾向にありました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出自粛やテレワークの普及等により、乗車人員数は大きく減少しました。



出典：町田市統計資料
(2002、2003年度はデータなし)

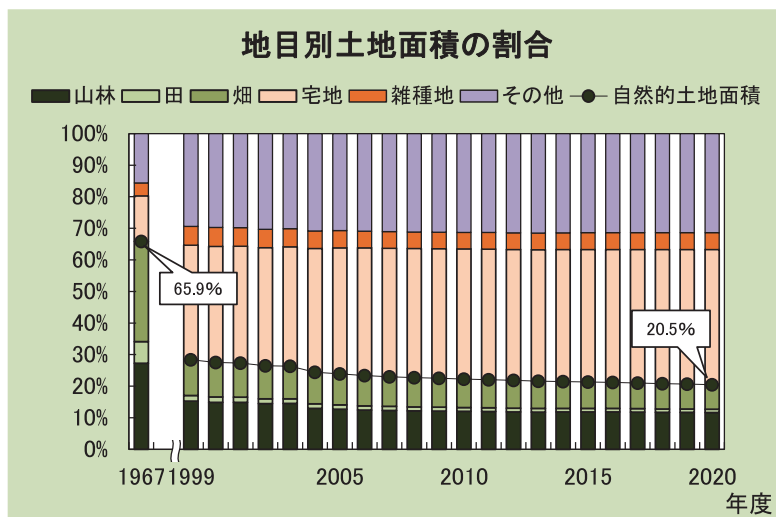
町田市内を運行するバスの延キロ数は減少傾向にあるものの、輸送人員数は、1998年度以降概ね横ばい傾向にありました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2019年度に比べて輸送人員数が27.3%減少しました。

2.2. 町田市の自然環境 ～地目別土地面積と公園面積から見る緑地の割合～

(1) 自然的土地面積の割合

山林・田・畑などの自然的土地面積は年々減少しています。

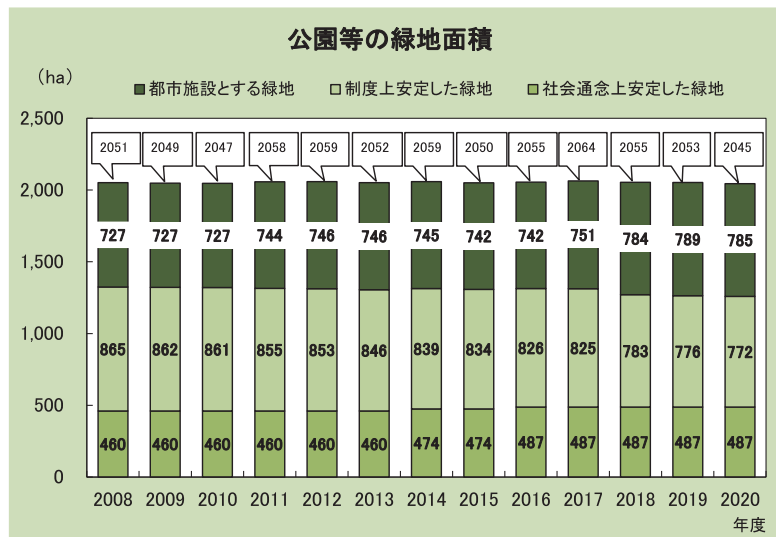


出典：固定資産税概要調書より作成

町田市は、鶴見川、境川、恩田川、真光寺川の源流域を有し、豊かな自然環境に恵まれています。しかし、地目別に見ると、1967年度に65.9%あった自然的土地面積は、2020年度に20.5%³となるなど、山林、田、畑などの自然的土地面積は年々減少しています。

(2) 公園等の緑地

公園緑地等の都市施設とする緑地面積は概ね横ばいで推移しています。



出典：町田市公園緑地課資料

町田市では都市の主な緑地となる公園の整備や緑地の保全を進めています。

市民にとって身近な公園等である都市施設としての緑地の面積は、2020年度末で約785haであり、2018年度から概ね横ばいで推移しています。

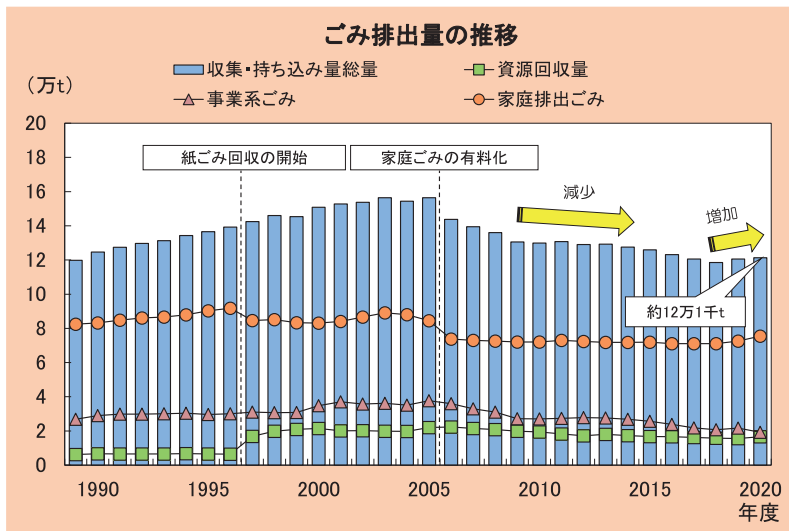
また、生産緑地や風致地区、ふるさとの森に代表される制度上安定した緑地、学校や社寺境内地等の、社会通念上安定した緑地などを含めると、町田市全体の公園等の緑地面積は2020年度末で約2,045haとなり、市域面積の約29%を占めています。

³ 地目別土地面積の算出方法：2015年度より固定資産税の概要調書作成において、「その他」の地目面積集計方法が変更され、地目別土地面積総計と行政面積に差異が生じました。このため、ここではその差異面積を、便宜的に「その他」の地目に加え、行政面積に対する地目別の割合を算出しました。

2.3. 町田市の廃棄物 ～ごみの排出量と資源化率からみる現状～

(1) ごみの排出量

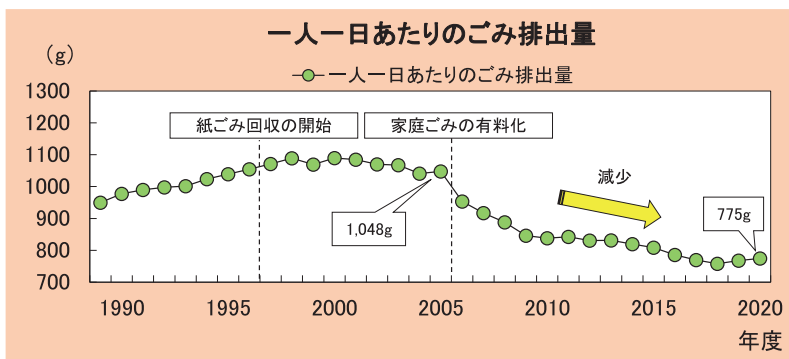
近年ごみの排出量は増加しています。



出典：町田市清掃事業概要（各年度3月末現在）

ごみ排出量は、1997年度に紙ごみ回収を開始したことにより、資源回収量が増加し、家庭ごみが少し減少しました。ごみ排出量の総量は、2003年度から2005年度にかけて最も多くなりましたが、2005年10月から家庭ごみの有料化を実施したこともあり、2006年度以降は減少傾向にありました。しかしながら2019年度から増加傾向に転じています。

2020年度は、2019年度と比べて約769t増加しています。

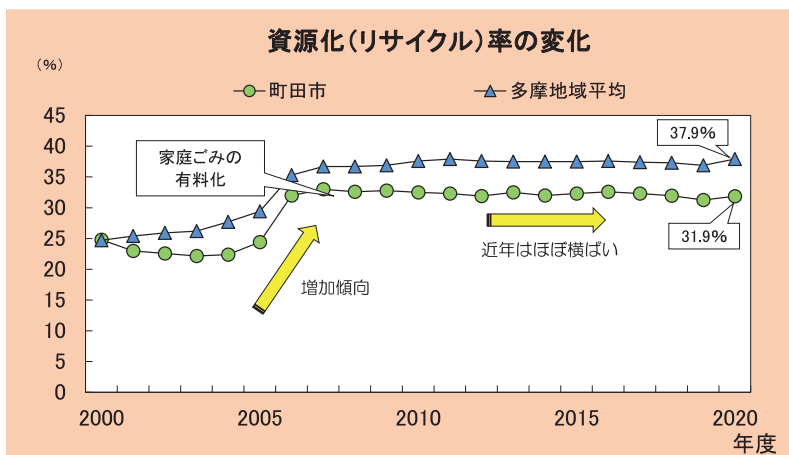


出典：町田市清掃事業概要（各年度3月末現在）

一人一日あたりのごみ排出量は、2005年度は1,048g/人・日でしたが、2020年度は775g/人・日まで減少しています。

(2) 資源化（リサイクル）率

資源化（リサイクル）率はほぼ横ばい傾向です。



出典：町田市清掃事業概要（各年度3月末現在）
多摩地域ごみ実態調査

町田市の資源化（リサイクル）率⁴は、2005年度から向上したものの、2007年度以降はほぼ横ばい傾向で推移しています。

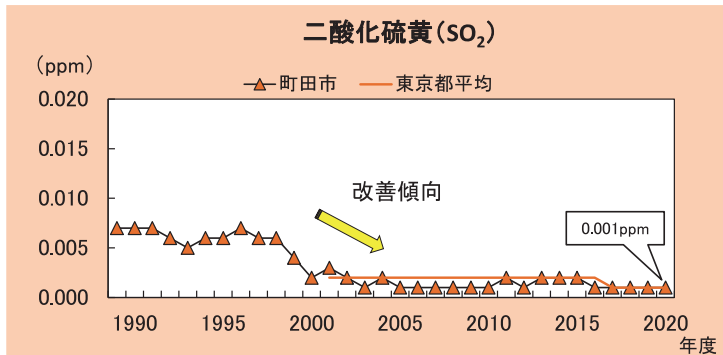
2020年度の資源化（リサイクル）率は31.9%で、多摩地域の平均と比較すると、6.0ポイント低くなっています。

⁴ 資源化（リサイクル）率：一般廃棄物の総排出量に対する資源化を行った総量の割合のことを言います。
資源化（リサイクル）率＝総資源化量÷総排出量（ごみ回収量＋資源回収量）×100

2.4. 町田市の生活環境 ～大気や水などの指標からみる現状～

(1) 大気環境測定結果

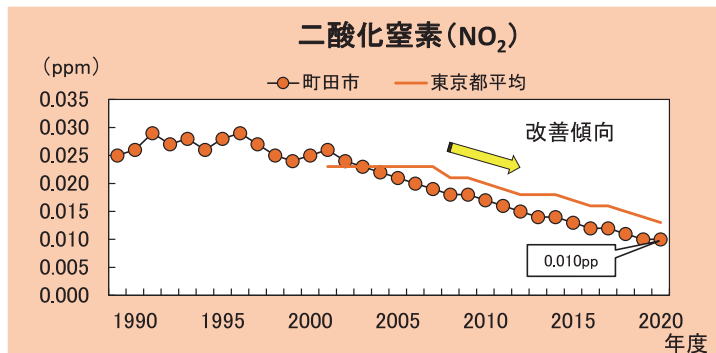
大気環境全般は改善しています。



出典: 東京都大気汚染常時測定結果報告

二酸化硫黄⁵ (SO₂) は、2002 年度以降減少し、改善傾向にあります。

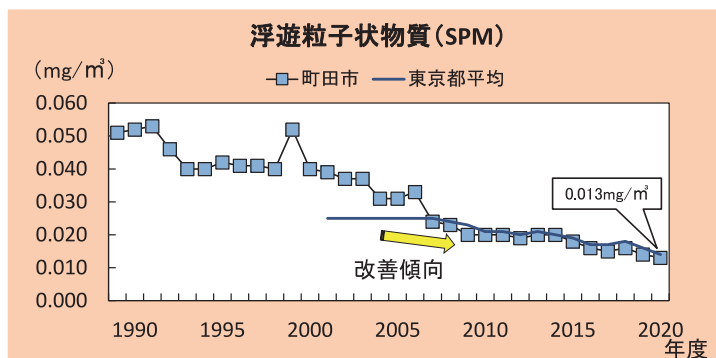
東京都平均とほぼ並び、また、環境基準は下回っています。



出典: 東京都大気汚染常時測定結果報告

二酸化窒素⁶ (NO₂) は、2002 年度以降減少し、改善傾向にあります。

東京都平均や環境基準をともに下回っています。



出典: 東京都大気汚染常時測定結果報告

大気中の浮遊粒子状物質⁷ (SPM) は、東京都平均や環境基準を下回っており、年々改善傾向にあります。

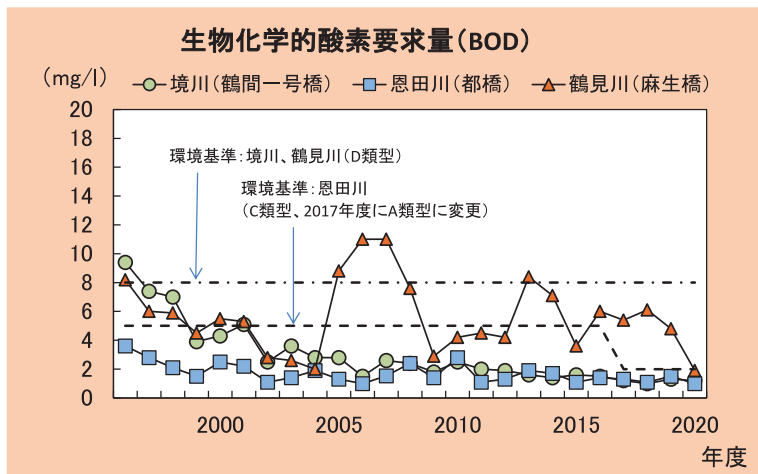
⁵ 二酸化硫黄：工場や火力発電所で石炭や重油を燃焼する際に発生するガスです。呼吸器への悪影響があるほか、酸性雨の原因物質でもあります。

⁶ 二酸化窒素：物が燃えると必ず発生するガスである窒素酸化物 (NO_x) の一つです。燃料により発生する一酸化窒素は大気中で酸化されて二酸化窒素となり、人間の呼吸器に悪影響を与えます。

⁷ 浮遊粒子状物質：大気中に浮遊する物質のうち、粒径 10 マイクロメートル (1 マイクロメートルは 0.001 ミリメートル) 以下のものをいいます。ボイラーや自動車の排出ガス等から発生するもので、大気中に長時間滞留し、呼吸器系に悪影響をおよぼす恐れがあります。

(2) 河川の水質測定結果

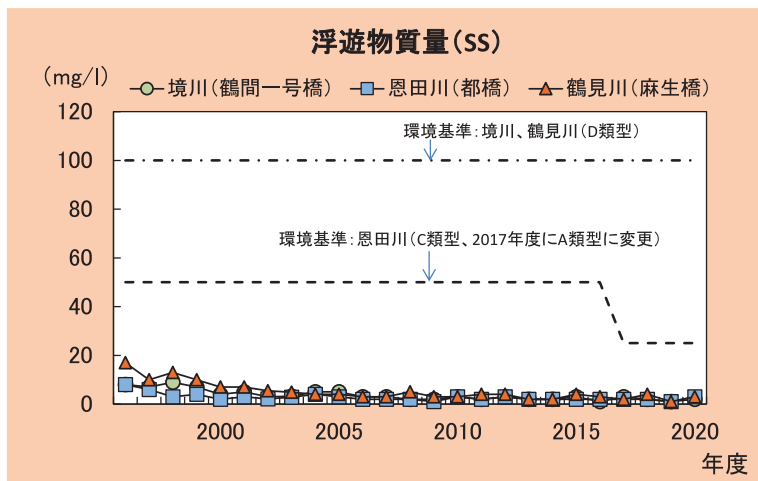
河川の水質は改善傾向です。



出典：東京都公共用水域及び地下水の水質測定結果（年度 75%値）

市内を流れる境川、恩田川、鶴見川の水質は、下水道普及率の向上に伴い、1990年代と比べて改善されました。

生物化学的酸素要求量⁸（BOD）は、鶴見川では変動があるものの、2014年度以降3河川とも環境基準を下回っています。

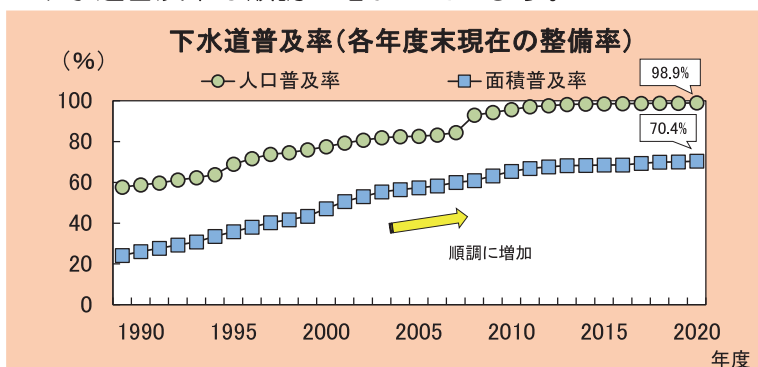


出典：東京都公共用水域及び地下水の水質測定結果（年度平均値）

浮遊物質⁹（SS）は、近年では3河川とも安定して良好な値を示し、環境基準を下回っています。

(3) 下水道普及率の変化

下水道普及率は順調に増加しています。



出典：下水道整備課資料

町田市の下水道普及率（人口普及率）は、着実に上昇し、2020年度末現在は、98.9%で、前年度と比較すると0.1ポイント増加しています（面積普及率は前年度と比較して0.3ポイント増加）。

⁸ 生物化学的酸素要求量（BOD）：水中の有機物が、微生物のはたらきによって分解されるときに消費される酸素の量のことで、河川の有機汚濁を測る代表的な指標の一つです。河川の環境基準や排水基準などで定められています。数値（mg/L）が大きいほど、有機物の量が多く、汚れが大きいことを示します。

⁹ 浮遊物質（SS）：水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質の量のことで、主に粘土鉱物、動植物プランクトンやその死骸、工場排水等に由来する有機物や金属の沈殿物等であり、数値（mg/L）が大きいほど、水が濁っていることを示します。